

語る者も聞く者も

2022年8月21日

使徒の働き 10章23b～33節

序：ローマ軍の百人隊長コルネリウスの回心

異邦人の多い町カイサリア（ローマ総督、軍が駐屯）での神の御業
施しと祈り、家族全員が主を畏れかしこんでいた = 敬虔

神の備え

(1)コルネリウスへの幻と命令

彼が神に受け入れられている

ヤッファの皮なめしのシモンの家に滞在しているシモン（ペテロ）を招け

二人のしもべと敬虔な部下のひとりを派遣（翌日）

(2)ペテロへの幻（異邦人に対する誤解や偏見を正し、派遣する準備）と命令

大きな敷布のような入れ物に、種々雑多の動物・鳥

ユダヤ教の律法（きよい物、汚れた物の厳格な区別）を守る ⇔ 神の命令
「屠って食べよ」

神への抗弁（思いがけない事態に戸惑い・教理的にも実践的にも強い違和感）

問答3回の後に入れ物は引き上げられた

神の新しい命令に従う信仰・それに基づく新しい生き方が求められた

神はふたりの当事者たちに

(1)祈っている時に（前日、当日）

(2)幻によって（御使い、天からの声）示し

(3)すべきことを指示

神のタイミング

(1)前日にカイサリアを出発したコルネリウスの使者が、シモンの家に到着

(2)まだ思い巡らしている最中だったが、御霊がペテロに説明・指示

(3)3人と面会、用件を承諾、招き入れて泊まらせる（翌朝出発）

I. 新しい使命

異邦人への福音宣教

神の主導・異邦人の求め・使徒の従順

II. 信仰による行動 = 神の計画実現

11:12

(1)ペテロ、3人の使者、ヤッファ在住の信仰者たち数名（6名）が翌日出発

(2)次の日に、カイサリアのコルネリウスの家に到着

(3)神が御使い、御霊によって二人が会う備えをされていた

III. コルネリウスとペテロの出会い

(1)コルネリウスの出迎え

到着推測時間よりも遅くなったが、期待に胸躍らせて待っていた

平伏して拜んで迎えた（軍人、絶対的、全面的服従）

- (2)ペテロの注意（礼拝するのは神に対してだけ） 例：中村正鋼兄
私は救われた罪人のひとり、神のみことばを伝えるしもべにすぎない
招きを感謝しながらも、神のごとく礼拝されることを拒む
神の前には、みな同じ人間（尊敬することはあっても、礼拝の対象ではない）

(3)親しい語らい

神が二人を準備なさった
ユダヤ人のペテロが、異邦人の家に入る、話し合うことは論外だったのに
二人の話題は、神のくすしい導きについての証し
神の慈しみ深い配慮

Ⅳ. 集まった多くの人たちに経緯を語る

- (1)本来、ユダヤ人は異邦人と交わらない（訪問、食事、話しをしない）
(2)幻（種々雑多の動物）によって、神は偏見、既成概念を拭い去った
(3)招きを受けたときには、ためらわず応じる決心ができた

- (4)コルネリウス側の経緯の証しを求める
〃 の体験の説明が公表される

Ⅴ. 感謝と歓迎のことば

「ようこそ～御前に出ております」

例：伝道集会、宣教大会などで、講師を迎えるあいさつ
ある神学校の礼拝堂の講壇に刻まれている ⇒ そこに立つ説教者のため

Ⅵ. 適用

- (1)大事な出会いには、双方に神の明確な導きがある
(2)神の備えを語り、分かち合うことで、主への感謝と賛美、自らには確信が増し加わる／ 証しの主人公は私ではなく、主なる神
(3)神のことばを聞く者も語る者も、神の御前には「同じひとりの人間」である事実をわきまえる（過度の賞賛、神格化に陥らぬよう）
(4)語る者は語る前に聞く者、聞く者は聞くに終わらず語る者となる
(5)コルネリウスの神への姿勢、ペテロを迎える態度に学ぼう
☆明確な回心前の段階でも、自分のすべきことを進んで行う
☆自分だけでなく、家族や周囲の人たちも神のことばを聞かせたい、ともに神を礼拝する祝福にあづかってほしいという祈り願いをもって、機会を作る
☆神のことばを期待をもって待ち望む
☆神のことばを真剣に聞く
☆神のことばに信仰をもって応答する

伝道は人を通して、人のためになされる神の御業

神のことばを神のことばとして宣べ伝える

神のことばを神からのものとして真剣に聴く

ローマ 10・14、17